

## 京丹後森本アグリ(株) 代表取締役社長

## 坂田正弘さん

## 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

「森本地区の農業を守るために、集落ぐるみの会社をみんなの力で立ち上げた」と話す、京丹後市大宮町森本の農業生産法人「京丹後森本アグリ(株)」代表取締役社長の坂田正弘さん(70)。将来は、同社が同地区の全農地を集積し、次の世代に経営を引き継げるようにと力を入れる。

坂田さんが中心となり、2004年に同社の前身となる森本集落営農組合を立ち上げたのは「高齢化が進み、狭小な田んぼのままでは森本の農業が衰退してしまう」という危機感から

だった。同組合で水稲の農作業受託を進める一方で、坂田さんが先頭に立ち、行政に対して圃場(ほじょう)整備の必要性を強力に要請してきた。そのかいもあって10年4月に圃場整備事業が始まった。さらに農地の利

用権設定を行い、迅速な経営判断と責任を明確にするためには株式会社が必要だと、地区内の農家に呼び掛けて10年6月に同社を設立した。

「会社の設立当初は厳しい経営だった」と坂田さん。作付



▶ 集積した水田で、森本地区の農業の将来を熱く語る坂田さん

面積を増やして3年目から経営を軌道に乗せることができた。圃場整備が昨年度に完了し、1枚が1畝規模になった農地が約40畝広がる。同社は、そのうちの32畝で、飼料用米や加工用米を含む水稲29・3畝を中

心に、小菊やタマネギなどの生産に取り組む。生産した農産物は全量JA京都へ出荷する。さらに、府農地中間管理機構の借受希望者に応募し、地区内の全面積約60畝の集積を目指している。

坂田さんは「今後も主食用のコシヒカリを中心に、米作りを経営の柱にしていきたい。これからは会社が、若い就農希望者を受け入れて育成すること、農地集積のモデルになって、近隣の地区にも広がってくれるよう頑張りたい」と話す。

.....

■法人所在地 京丹後市大宮町森本1347、(電)0772(64)4167。

■法人概要 2010年6月設立。取締役4人、監査役1人。水稲29・3畝(主食用コシヒカリ12・2畝、飼料用米10・9畝、加工用米6・2畝)、小菊など2・7畝。農機はトラクター3台、コンバイン3台、田植え機2台、直播(ちよくは)機1台。乾燥調整機1基。

## 農地集積のモデルに